



1年学年だより

発行日：令和元年 11 月 30 日（土）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：三浦 昌彦 NO. 7

令和2年度生徒会役員選挙が行われました！

11月12日（火）に令和2年度生徒会本部役員を選出する立会演説会が、高校と合同で行われました。候補者たちは「これまでの先輩方がつくり上げてきた生徒会活動を、全校生徒がより納得できるものにしていきたい」「本部役員でなかった時に感じていたことを、本部活動にいかしていきたい」「みんなの笑顔があふれる学校生活にしていきたい」など、思いを熱く語りました。同日に投票した結果、令和2年度生徒会本部役員が以下の通り決定しました。

生徒会長	2年3組	■■■■	さん
役員	2年3組	■■■■	さん、2年3組
	2年4組	■■■■	さん
	1年2組	■■■■	さん、1年4組
		■■■■	さん



令和元年度 現生徒会本部役員のみなさん



令和2年度 新生徒会本部役員のみなさん

今年度、生徒会本部は「つながりをつくろう過ごしやすい学校 ～一人ひとりの姿勢から～」という生徒会目標を掲げて活動しています。例えば3学年の交流の場として先輩たちから受け継いできているSLM（スマイルランチミーティング）の運営方法をアップデートしたり、ドッチボール大会を全校交流イベントとして12月2日（月）の開催を計画したりしています。12月から3月までの4カ月、現役員と新役員の11人がともに活動することで、生徒会活動の引継ぎとパワーアップとを目指していきます。

本部役員は附属中生の代表として活動していきますが、附属中学校を作っていくのは全校生徒のみなさんです。開校以来8年が経過している南高校附属中学校は、原型こそ固まりつつあるかもしれませんが、生活している生徒一人一人は常に変化しています。これまで先輩方が築き、先輩方から受け継いできた土台をもとに、「いま」の附属中生が思い描く理想の学校像を言葉にして、全校生徒で明日の附属中学校をつくっていきましょう。学校作りは「一人ひとりの姿勢から」です。さまざまな生徒会活動（委員会活動やクラスの係活動や学校行事など）は附属中生一人ひとりの成長のチャンスです。創意工夫のある生徒会活動を通して、附属中生が心身ともにたくましく成長していくことを願っています。

親子で学ぶコミュニケーション研修

11月5日と7日には、5月に行われたコミュニケーション研修の第2弾が行われました。講師はお馴染みのミッキー先生こと戸村 充男先生です。前回学習したことを復習しながら、「聴く力・質問の力・伝える力」を身につけて実践するための具体的なコミュニケーションの方法を学びました。

また、11月9日（土）には、生徒たちに大好評のこのコミュニケーション研修を、保護者の皆様にも体験していただきたく「親力アップ！コミュニケーション・セミナー」を実施いたしました。当日は100名近くの保護者の方にご参加いただきました。ありがとうございます。「コミュニケーション」を話題として、また、お子さんと同じ内容の研修を受けて、ご家庭でも会話が弾んだことと思います。これからも、ご家庭と学校とが協力し、人間力の豊かな生徒を育てていきたいと思っております。



生徒の感想より

○ミッキー先生が話してくださった物語やテレビの内容をきいて、例えば、自分は今まで先入観で決めつけることをしていたなと気づかされるなど直すべきところがたくさん見つかりました。さらに、となりの人と実践していると、できていないことが分かり、次につなげるためにどうしたらいいか考えられました。

・あいさつや礼儀の基本を1からていねいに行う。・相手の話をささげらない。一方的にならない

○いつも友達と話している時は、ただ黙って聞いているだけですが、パートナーと相づちやちょっとした言葉を言うだけでこんなに気持ち良い会話ができるんだと思いました。

○・共感や同意があると、不安ではなくなる。・話した後にお礼を言われると気持ちが良い。・ボール（コミュニケーションの）を投げ合うことによって人間関係や会話が成り立っている。

○実際に隣の人と話をすることで、自分の話をしっかりとした態度で聴いてくれるのは嬉しいことだと気づいた。ミッキー先生の話し方や、話している時の表情から、こうすればみんなに分かりやすく、より良いイメージを持ってもらえるんだ…ということを発見した。

○まず、自分が話すのではなく、相手の話を聴くことをしていこうと思った。そこから訊いてみたり、相づちを打ったりしていきたいと思う。また、無知・無視・無反応はしないようにしたいと思う。プラス思考で受け止め、行動していきたいと思う。

保護者の感想より

○会話にはとても重要な力が秘められているのではないかと思います。相手の心がわかる、状況がわかるために必要なこと。でも、その大切さを知らない勝手な思い込みでいる自分ではないかと気づかされました。

○コミュニケーションのやりとりが難しかった子供の幼い頃の方が、こちらこそ一生懸命努力して聴く・質問する・観察する・感じるを実行していたような気がします。大きくなった今は、コミュニケーションではなく子供のリマインダーとしての会話になってしまっていたかも…？特に、最後まで相手の波長に合わせて聴くを心がけたいです。



EGG 体験☆K-DEC 開発教育講座

11月9日(土)には、K-DEC(かながわ開発教育センター)より講師の方をお招きして、開発教育講座を行いました。各教室でVTRを見ながらカカオ生産に携わるガーナの子どもたちの生活を学んだり、カカオを生産しているにもかかわらずチョコレートを食べたことのない子どもたちに「チョコレートをあげるべきか否か」をグループで議論したり、「カカオ農園の子どもたちに(私たちが)できること」について考えたりしました。先進国と開発国との格差という深刻な問題について、真摯な話し合いが行われました。



生徒の感想より

○小学校の授業などで、私たちのような不自由のない生活が出来ていない国があるのは知っていたけれど、実際どのような状況の中で生活をしているのかは知りませんでした。講座で、ビデオを見ながら、カカオ農園の人たちの暮らしを知っていくことで、私のその国に対する考え方が変わりました。また、プリントを使って考えた、カカオ農園の子どもたちにできることは、どれも大切なことだと思ったので、順位を考えるとすごく難しかったです。でも、逆に考えれば、私たちにはまだそれだけたくさんのことをカカオ農園の人たちに出さるんだなと思いました。だからこそ、私はそのような活動を1つずついいから行っていきます。1人が動くことで何か変わるかもしれないけれど、たくさんの人が動けば、大きな力になると思うので、周りの人からいいから、自分が知っていることを伝えていきたいと思います。

私がまだ知らなかった世界の現状について、今回知ることができました。教えていただいたことは、お母さんやお父さん、妹や弟は知らない部分もあると思うので、まずは、家族と共有したいです。

○私は、前にガーナの貧しい子どもたちのことについて調べてみたことがありました。その時も、ガーナの働いている人たちの大変さを感じ、私は裕福な暮らしをしていたんだということを実感しました。しかし、今回の活動を通してみると、その時の感想も浅いものだったな、と思います。今回、本当に実在した人たちのビデオを見て、ガーナに住んでカカオを栽培している人たちの生活の厳しさを初めて目の当たりにしました。6時に起き、学校に行く前に家の手伝いをし、苦勞しながら学校に行き、帰ってきたらまた手伝い…といったように、私なら絶対にこらえられないタイムスケジュールでした。しかし、そんなに働いても、4人が1日で働いてもらえるお金は55円。1年でもらえるお金はたったの2万円と、とても少ないものでした。それでも必死に働き、何の愚痴も言わない子どもたちは、尊敬に値すると思います!! 今回のプリントに、「考えてみようーカカオ農園の子どもたちのためにできること」というものがあり、ガーナに住んでカカオを栽培している子どもたちのためにできることを個人・班で順位づけしました。その中には、私たち個人では到底できないものも多くありました。私ができるな、と思ったことは、『ユニセフの募金に協力する』、『身近な人と「貧しさ」や国際協力について話す』、『カカオの貿易やカカオ農園で働く人々の現状を知る』の3つです。これは、私たち、力のない子どもたちでも積極的にできることだと思います。身近な人と話をして、何か変わるわけでもないし、自分が現状を知ったとしても、直接ガーナの人々には関係ない。でも、大人になったら、ガーナの人々に対しての支援が少しでもできればと思います。

11月30日にはJAXA宇宙開発講座も…。今月は外部から講師の先生をお招きしたイベントがたくさん行われました。これからも、様々な人との関わりを、学びのチャンスにしていけたらいいですね。